

第51号  
2024年10月1日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

# 神戸真生塾創立134周年に寄せて

真生乳児院 保育士 藤井 寿子

2024年5月19日に神戸真生塾134周年創立記念礼拝が本館で開催されました。事前に小学生のこともたちが手書きイラストのプログラムを作成し、高校生の1名は「聖書拝読」を行うためにリハーサルを繰り返すなど、こどもたちもお客様をお迎えする準備をしておりました。当日は施設にゆかりのある方々もお祝いに駆けつけてくださり、コロナが落ち着き、久しぶりとなった食事会の交流も楽しんで頂きました。現役のこどもたちの成長ぶりを喜ぶだけでなく、乳児院で共に生活し、育ちを支えてきたこどもたちが数十年前ぶりに神戸真生塾に里帰りしたように元気な姿を見せてくれたことは、毎日の養育を慌たたくすごす私たち職員にとっても、うれしい時間となりました。

私は真生乳児院にご縁があったから長い時間をすごさせていたただいておりますが、創立記念に参加した一職員として、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた歴史の重

みを感じ、こうして繋がってきたからこそ現在の神戸真生塾が成り立っていることを改めて感じ、気が引き締まる思いがしました。

134年の歴史の中で、「真生乳児院」としても時間を積み重ねてまいりました。措置されてくるこどもの理由は、時代とともに大きく変化しています。数十年前には「若年出産」「母親の疾病」「未婚」「離婚」「借金」という個人の理由が原因で措置されてくるケースが多かったように思いますが、現在は「虐待」「ネグレクト」「母親の精神疾患」という生きづら現代社会の構図を反映するケースが大半です。

「こどもだけをしっかりと養育する」というあり方からは遠ざかり、保護者や家族の方が抱えるライフスタイル、価値観、経済的困難、子育て環境のむずかしさなど様々な問題に合わせた「家族」への支援も含めることが、乳児院の大切な役割となっています。その支援として、家族との交流でこども

もたちの将来に繋げていく様々な取り組みを行っています。入所中においては、面会交流、養育のモニタリングなどを通じて早期家庭復帰を実現しようとする努力をし、退所してからはアフターケアの実施で丁寧な対応を心掛け、再分離を防ぐように取り組んでおります。

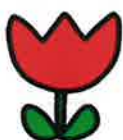
また、国の施策である「養育ビジョン」に沿って、家庭内養育をすすめるにあたり、地域を支援する、入所児を減らし一時保護が増えることに対応する、など新しい乳児院の方針転換が求められ、役割をまっとうするためにできることは何かをみんなで考え、少しずつ変化してきています。それに加えて、こどもたちの視点にたった「権利」の尊重についても私たちに課せられた役割のひとつになってきています。

乳幼児であり、権利の主張や表明できない難しさがあっても、「アドボカシーを大切にしていく」について日常の会話の中から推測して、こどもの思いによりそいながらことばに変えていく、こどもたちが育っていく過程において、当たり前にある「権利」を保障していくことが必要であると、国連こども権利委員会で採択されています。

私たち職員は、その視点を中心もの立場に変え、権利とは何か、一人一人の思いはどこにあるのか、まだまだ研修等で学び実践している途中ではありますが、多くを感じて向上し、こどもに寄り添っていきたくと、施設長以下、職員がそれぞれの専門性を活かし、日々の養育に努めております。

まだまだ私達の果たすべき役割の大きさは計り知れず乳児院ですごすこどもたち、地域のこどもたちも含めどう支えていくのかを広い視野をもつての対応が不可欠となっています。変わりゆく時代の波をチームワークで乗り越え、神戸真生塾としても新たな歴史を紡いでいけるよう微力ながら進歩しつづけることが使命であると考えています。

神戸真生塾に関わってくださる皆様の温かいお気持ちとご支援で今日もこどもたちに関わらせて頂くことに感謝し、こどもたちの未来が明るいものでありますようにと心から願っています。



社会福祉法人 神戸真生塾

# 2024年度

## 事業計画

2017年に出版された暁峻(あきしん)著「対話する社会へ」の中で「戦争・暴力の反対語は、平和ではなく対話です」と語っています。我々の仕事は人間相手の仕事であり、相手もいろいろ考えながら生きています。子どものことでセンターや関係機関、そして施設内の様々な職種と立場の人間が集ってカンファレンスを行います。これは、子どもの課題について質の高い支援が提供出来るように情報共有や意見交換を行い、子どもの状況や課題が把握できます。そのことにより急な動きや変化が起きても、臨機応変に対応できる環境を整えられます。今年度は組織内の風通しを良くすることによって組織力を高めることを目指します。そのため、施設内からあらゆるハラスメントと誤解を受けるような言動や態度を無くして行く努力が求められます。異なる意見を出し合える組織、答えの無い時代に答えを求めるために「対話」を通してより良いアイデアが出せる組織を目指します。

### 乳児院 (真生乳児院)

「愛を育む」としています。創立時の施設長矢野毅が残した墓碑には「人がその友のために命を捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持つていません。」(ヨハネの福音書 第15章 13節)が刻まれています。

日本社会は、昔から愛によって家族や地域が成り立ち、社会が形成されていきました。しかし、昨今、インターネットの普及を機に国際的なグローバル化の波が押し寄せ、良くも悪くも個のみが大切にされるような価値観が生まれ、他者を愛する気持ちがいささか蔑ろにされつつあります。

真生乳児院では、まずこの愛を大切にするため、すべての根源でもある愛着形成に力を注ぎます。十分に愛された体験がその子どもの後々の人生に大きな影響力を与え、自分自身を愛する事をもとより自分が愛されたように他者を愛する気持ちが育まれるのです。

### 児童養護施設 (神戸真生塾)

「愛の実践」ルカによる福音書 10章25節〜37節の「良きサマリア人のたとえ話」を用いて、児童養護施設神戸真生塾ではこのイエスのたとえ話を実践する

ために、子どもに寄り添う思いを根底に、技術と知識を身に付けて向き合っていきます。この様に「聖書の中に示されたイエスの姿」は当時、社会的な弱者と呼ばれた「子どもたちや、高齢者、障害を持つ人々、難病を持つ人々」たちに寄り添い、様々な癒しの業を行ったこと、私たちはこの様なイエスの実践が現代の社会福祉の実践モデルであり、我々もその通り行うべきと考えています。

### 児童家庭支援センター

(神戸真生塾 子ども家庭支援センター)

2024年4月1日より児童福祉法等の一部を除き施行される中で、これからの児童家庭支援センターは、地域の子育て支援専門機関としての力量を問われることにもなります。

当センターは児童家庭支援センターに認可を受けて19年目となり、相談件数や児童相談所からの委託、機関連携等着実に積み重ね、職員体制も強化し、ソーシャルワーク機関としての成長を遂げていますが、2024年度は、センター長の交代やスタッフの入れ替わりもあり、今一度、基本業務に立ち戻り、事業展開していきます。また、児童家庭支援センターは

要保護児童や要支援児童の支援をしており、その多くが、小児期逆境体験 (Adverse Childhood Experiences) を経験した子ども達であるが、その影響を和らげる保護的・補償的体験 (Protective and Compensatory Experiences) を意識した支援を進めていきます。

### 幼保連携型認定こども園

(真生きらきら保育園)

昨年度より、再開した行事については、新しい職員も含めて行事の見直し、調理担当職員と食育等、柔軟に計画実施していきます。コロナ対応緩和の中で今まで乳幼児分散保育から誕生会他、全員で集う行事も増えて、子どもの成長を職員が共有しやすくなりました。コロナ禍での保育の検証が今進められようとしています。現場で感じることは、特にコロナ禍で誕生した0・1・2歳児の成長については、大人がマスクをしていたので、「言葉の発達が気になる」「相手の表情を読み取ることが苦手」等聞かれるようになりました。そのことも踏まえて子どもの育ちを見守りながら、職員が子どもの成長を話し合える場を設けることを意識して保育を進めていきます。

### 児童自立生活援助事業

(神戸市児童自立援助ホーム 子供の家)

神戸市指定管理業務としての自立援助ホーム運営も12年が経ちました。今年度より2024年度末の指定管理業務更新について、本庁と議論を重ねてきました。管轄の子ども家庭局は自立援助ホームの理解はしていたのですが、財務当局より指定管理料の妥当性、指定管理業務の自立援助ホームが全国に神戸市だけで他都市にないと言ふ事での必要性を問われ続けました。必要性や実績等の書類を作成し議論を重ねてきています。しかし、今日的な社会の諸課題を見るに付け自立援助ホームとしての業務の中で、児童養護施設とは違う自立援助ホームの必要性を実感しています。社会の課題に向き合う自立援助ホームは児童養護施設、自立支援施設、心理治療施設、ファミリーホーム、里親では受け入れきれない、行き場のない子ども達の居場所として不可欠だと確信しています。





# 児童養護施設 神戸真生塾

## ピアノの発表会

現在、6名の子ども達が、ピアノを習っています。神戸女子短期大学、名誉教授の廣田先生がボランティアで毎週、教えに来て下さっています。

ピアノの発表会は毎年春休み頃に開催されており、ピアノを習っている子ども達はこの日のために1年間練習を頑張りま

す。廣田先生へピアノの発表会のお話を伺うと「毎週、1年間頑張った集大成である本番に向けて、ソロや連弾をそれぞれ一生懸命練習しています。今後



達から日常生活で廣田先生より褒められたことを話す姿もあり、子ども達の支えにもなって下さっています。

ピアノの発表会が近づくと緊張もあり「恥ずかしいな」「やりたくないな」と言葉に出しますが、当日になると直前まで一生懸命練習します。本番ではそれぞれ精一杯頑張り、間違

うこともありますがそこで諦めず最後まで弾くことが出来ます。観客と一緒に生活している子ども達や職員です。静かに聴きながら心の中で応援し弾き終わった後は盛大に拍手をおくります。

全員の出番が終わると代表の児童より廣田先生へ花束とお礼の言葉が贈られ、頑張った児童

に対して、担当職員からも花束を芳いの言葉と共に渡します。その後は発表会にでた児童、

廣田先生、担当職員でピアノの前で写真を撮り、写真と共に頑張った姿が残り、後日アルバムと一緒に思い出を話す姿も見られます。

発表会終了後は皆、ホッとした表情を浮かべ「出来ていた?」「良かった!」等それぞれ話したり、廣田先生からお菓子を頂いたりして達成感と嬉しさから笑顔になる瞬間をとっても喜ばしく思います。

廣田先生、いつも子ども達に優しくご指導下さりありがとうございます。

今後子ども達がピアノを通して成長していく姿を職員一同心から楽しみにしております。

荻須 日奈子



## 創立記念日

初めに、神戸真生塾の創立のお祝いを、お越しいただいたお客様、退所生の皆様と共に行うことが出来ましたことを心より感謝しております。

5月19日に神戸真生塾134周年のお祝い会を行いました。

感謝礼拝は、ロータリーにて行い、讃美歌を賛美し、上杉施設長のお話をお聞きし、お祈りを行いました。

お祝い会は、ホールにて、栄養士の方が作って下さったトツピングカレーを頂きながら、団欒のひと時を過ごしました。退所生やその時の担当職員の方から、当時のお話を聞かせていただき貴重な時間もありました。法人の各施設や歴史・行事を紹介するスライドショーも皆で鑑賞しました。普段聞くことのないお話を聞いたり、コロナ



禍前の規模の大きい行事の様子を鑑賞したりし、子どもたちも色々な事を感じたのではないかと思います。

墓参礼拝は、あいにくの雨により少人数での実施となりましたが、退所生・職員でお花をお供えし、お祈りをいたしました。

昨年はコロナ禍の為、入所児童と職員はお祝い会には参加出来ませんでした。今年はお客様と共に食事を取りながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。このような形で開催できたのは5年ぶりとなります。子どもたち、職員・旧職員、退所生、来賓の皆様が集まり、久しぶりに再会が出来た方々もおられ、このような機会がもてましたことを大変嬉しく思いました。来年もまた、皆様と一緒に神戸真生塾の創立のお祝い出来る事を楽しみにしております。

佐久間 優実



# 乳児院 真生乳児院

## お誕生日会

6月15日にお誕生日会をしました。

乳児院では毎月お誕生月の子どもをみんなで祝いしています。ご家族の方々もお祝いに来て下さいました。主役の子ども達もお祝いする子ども達もわくわくそわそわした様子でした。眠さが勝って眠ってしまった1歳の主役もいて、乳児院らしい微笑ましい姿も見られました。主役の子ども達とご家族の方々はお誕生日席に、お祝いする子ども達や職員はお誕生日席がよく見える所に座るとお誕生日会の始まりです。まずは子ども達からのプレゼント。お菓子やシールなど可愛いプレゼントです。張り切って「おめでとう」と言ってお渡ししている子、渡したいけど恥ずかしくて職員と一緒に渡す子など、ここでも微笑ましい子ども達の姿が見られました。次に手作りケーキが登場し子ども達は大盛り上がり。みん



なでお誕生日の歌をうたい、主役の子どもとご家族がろうそくの火を消すと次は乳児院からのプレゼント。子どもやご家族がプレゼントを開けるのをみんなで見守り、中身を見て大盛り上がり。手遊びや紙芝居を楽しんだ後は、ご家族と一緒にケーキを食べました。今月のお誕生日会も多くの拍手と笑顔、そして微笑ましい子ども達の姿が見られました。改めてお誕生日おめでとう。素敵な年にしていきましょうね。  
三木 操

## 今日は何作ろう？

令和6年6月8日。そろそろ梅雨の時期のはずなのですが、今年は雨があまり降らずなんだか梅雨を飛び越えて、早くも夏が近づいてきた様な、そんな蒸し暑さです。

台所では食育を兼ねて、おやつや夕食に手作りおやつを提供しています。手作りおやつを提供すると、子どもたちはとても喜んでくれます。おやつは食事の楽しみになります。おやつは食事だけではなく、栄養や水分を補う役目があります。また、週に一度、旬の果物をカットせずに提供をしています。子どもたちに、普段カットされて出てくる果物の、本来の形や色を見ても良かったり、手触りを楽しんでも良かったりするためです。栄養士が食事中に各部屋を見て回る「ミールラウンド」をしていると、子どもたちに提供された果物や、料理の中の野菜が、どんな風に作られているか質問される事がよくあります。食に興味を持ってきているのだと思うと、嬉しくなりますね。

今日は夕食のみかんゼリー作



りを、子どもがお手伝いしてくれました。みかんジュースにゼラチンを溶かした液を混ぜてくれたのと、缶詰のみかんをスプーンで上手にすくって、一つずつ容器にポンと入れてくれました。自分が手伝ったことが嬉しかったみたいで、夕食時にお部屋で「ゼリー作ったよ」と言ってお部屋で「ゼリーを食べたいよ」と言っていました。子どもと一緒にデザートを作る機会を、定期的の実施出来たらいいなと思いました。お手伝いありがとうございます！  
栄養士 来住 紗波





# 幼保連携型認定こども園

## 真生きりきり保育園

### あたらしくなった遊具

今年の梅雨入りはゆっくりで晴れた日が多く、子どもたちは、園庭に出ると砂場や遊具で遊んだり、友だちと鬼ごっこを楽しんだりして汗をいっぱいかいて遊んでいました。今年の夏も猛暑が予想されています。局地的な豪雨も心配ですが、夏に向けて熱中症にも注意しながら過ごしていきたいと思えます。

先月、園庭の総合遊具の修理が終わり、縄のほり、チェーン、そしてブランコも、綺麗な赤と青になりました。翌日、子どもたちは綺麗になった遊具を見て、登園時に側まで行って、「わあー、きれいになってる!」と大喜びでした。幼児組の子どもたちは、お部屋に行くとお友だちにも教えてあげて、うれしい伝言ゲームのようでした。総合遊具は清風幼稚園時代からある遊具を大切に使用していただいています。私たちが日常使っている物は日々進化しています

が、いつまでも使えるものに感謝することも大切であると子どもたちも感じてもらえた出来事でした。遊具も子どもたちの歓声を聞いてきつと喜んでいてのことでしょう。 橋本 美記代

### もも(1歳児)

暖かいを通り越し夏のような暑い日もある中、汗ばむくらい戸外遊びを楽しんでいる子ども達。

5月は長いお休みもあり、各ご家庭で楽しく過ごした事を子どもたちの様子から伺えました。当初は不安そうにするお友だちも多くいましたが、笑顔で過ごせるようになり、園庭や室内で楽しめるようになっていきました。活動の範囲も広がり日々周りの物や人に興味関心が広がっている様子です。保育教諭やお友だちと嬉しそうに過ごす時間が増えてきました。少しずつお友だちへの興味も出てきている様子で、登園時には指さして「来た」と嬉しそうに教えてくれる

可愛い姿も見られるようになっていきます。

暑い日があったかと思つたら冷えたり、また暑くなつたりと、季節の変わり目、気温の変化がまだまだあります。園での生活にも慣れ始めた4月、5月は体調の優れないお友だちもいました。子どもたちの体調を見ながら無理のない範囲で、楽しく過ごしていきたいと思えます。 森 美紅・澤 亜実

### ぶどう(3歳児)

過ごしやすい季節となり、子どもたちも思いっきり外遊びを楽しんでいるこの頃。

新しいクラスに慣れ、園での生活リズムも整ってきました。一緒に遊んだり玩具の貸し借りをしたりと、友だちや保育教諭とのやり取りを楽しむ姿が見られます。

最近のぶどう組では「ダンゴムシ探し」「ブロック遊び」が人気で、友だちや保育教諭と一緒に遊びながら楽しく過ごしています。ダンゴムシを探す時は、人工芝の下などダンゴムシがいそうな湿ったところを、子どもたち同士で考え、見つけて遊んでいます。ブロック遊びでは、電車を作り実際に人形を乗せて走らせたり、友だちと協力して大きなお家を作ったりと様々な想像を膨らませながら遊んでいます。今後子どもたちと一緒に、季節ならではの生き物や自然物に触れたり、子どもたちの豊かな発想や想像を活かしながらあそびを展開したりして保育をしていきたいです。

村上 海衣・新居 麻琴

指先遊び



運動あそび



フープ遊び



ハサミに挑戦



新任職員紹介

児童養護

吉田 真帆



〔趣味〕 散歩

〔特技〕 お菓子作り

〔抱負〕 明るく元気に、子ども達とたくさん遊んで楽しく過ごしたいです。先輩のお姉さん・お兄さんに助けてもらいながら自分らしさを活かして神戸真生塾の皆さんと関係性を築けるように頑張りたいです。

竹田 和雅



〔趣味〕 散歩

〔特技〕 身体を動かすこと

〔抱負〕 子ども達の日々の生活や遊びを通して関わり、子ども達にとって頼りになる大人

を目指していきたいと思えます。

乳児院

小田 若奈



〔趣味〕 絵を描くこと

〔特技〕 身体を動かすこと・ソフボール

〔抱負〕 子どもの安全を第一に考え、保護者の方にも安心してもらえるよう笑顔で元気に接することを心掛けて頑張ります。まだまだ未熟ですがよろしくお願ひいたします。

小林 心寧



〔趣味〕 映画鑑賞

〔特技〕 楽器演奏

〔抱負〕 中学生の頃からの乳児院で働きたいという夢を叶えることができ、とてもうれしく思います。子どもたちが笑顔で安心して過ごせるように

頑張りたいです。よろしくお願ひします。

野中 いちい



〔趣味〕 お菓子作り

〔特技〕 暗算

〔抱負〕 母の姿を見て憧れていた保育職に就くことができ、とても嬉しく思います。一人ひとり沢山の愛情を注ぎながら保育したいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

立脇 里菜



〔趣味〕 音楽鑑賞

〔特技〕 バレーボール

〔抱負〕 幼い頃からの夢だった保育士になれたことを嬉しく思います。子ども達の思いに寄り添い、たくさん愛情を注ぎ、明るく元気に頑張ります。よろしくお願ひいたします。

真生きらきら保育園

新居 麻琴



〔趣味〕 映画鑑賞

〔特技〕 スキー

〔抱負〕 実際に現場で子どもたちと接して日々学びながら、子どもにとって安心できる場所になるような保育をしたいと思ひます。一人ひとりを理解し、子どもに寄り添える保育者になりたいです。

澤 亜実



〔趣味〕 音楽鑑賞

〔特技〕 整理整頓

〔抱負〕 日々成長していけるように努力し、子どもたちが安心して過ごせるよう一人ひとりの気持ちに寄り添った保育をしていきたいと思ひます。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

子ども家庭センター

中尾 真理



〔趣味〕 自然の中で過ごす、温泉に行く、スポーツ観戦、音楽鑑賞

〔特技〕 早い、安い料理作り、英会話

〔抱負〕 日々機嫌よく過ごしながら、支援者としては、出会いの尊さ、命の大切さを信じて、目の前の方の願ひに寄り添いながら、希望ある将来を一緒に展望しながら、伴走する者でありたいです。





# ありがとうございました

敬称略・五十音順

(二〇二四年一月一日〜二〇二四年六月三十日)

## 寄付金

- 網谷仁志
- 内田三枝
- 敷田紀久子
- 株式会社大古會
- 家庭養護促進協会
- 加渡
- 関西学院高等部
- 関西学院宗教活動委員会
- 倉石哲也
- 神戸教会
- 神戸栄光教会社会委員会
- 神戸女子大学
- 神戸女子学院
- 神戸昇天教会
- 神戸松蔭女子学院大学
- 神戸聖愛教会
- 子供の家職員一同
- 頌栄幼稚園
- 住元義則、淳子
- 捜真女学校高等学部中等部
- 玉川聖学院
- 東洋英和女学院宗教委員会
- 東洋英和女学院
- 富川浩子
- 友藤公雄
- 鳥井順子
- 鳥京
- 中村悦子
- 中学部高等部母の会

## 寄付物品

- 名古屋学院
- 難波美智子
- 日本児童養護施設財団
- 日本聾話学校
- 濱啓子
- パスウェイズジャパンフラハ大阪  
白山真知子
- 細見英信
- 松本、瀬沼、土居、堀川
- 綿谷栄子
- 石村晶絵
- 池田
- 板倉麻紀
- 浮田真司
- N T T印刷株式会社
- 大社貴子
- 太田里紗
- 太田垣裕紀子
- 大西啓介
- 小野史司
- 小野司
- 尾野藤真奈美
- 我謝賢
- 神果神戸青果株式会社
- 株式会社アップルシンフォニー
- 株式会社沖繩タイムス社
- 株式会社チュチュアンナ
- 株式会社ファーストリテイリング

- 株式会社みの屋
- 川崎麻央
- 瓦井英里香
- 吉勇雄
- 鬼防小雪
- 協同食品株式会社
- Kumiko
- 小池沙由里
- 神戸まな家
- 郡美恵子
- コープこうべ
- このはなさくら
- 小林史歩
- 齊藤佳孝
- 朔夜
- 佐々木愛
- 佐野晴香
- 32歳のサンタクロース
- 島谷齒科医院
- 島本美紀
- 庄司達哉
- 杉智子
- 角美由起
- 角谷あや
- 外山陽子
- たかはし
- 谷本美奈枝
- 土田葉
- 徳井里香
- 歳田章子
- 富澤知子
- 仲地伸哉
- 中西教之
- 中山雅世
- 錦織正樹
- 西口真那
- 西山ひろし

- 日本ベビーフード協会
- ONEMU hair & spa
- 橋本亜希子
- 原達平
- 葉山ゆう
- 樋口
- 兵庫県出身  
東京で頑張って働く41歳
- 廣瀬俊道
- ひなママ
- P & G
- 古川賢
- ファイリングアーツ
- 星野佳美
- 本谷由佳
- 馬庭あい
- 宮脇悦子
- 宮脇悠介
- 三好奈々絵
- 明治
- 恵美麻衣
- 桃原隆静
- 矢澤悠
- 山田真代
- 山根英敏
- ゆ
- 有限会社シャーマンホームベーカーリー  
ヘラ・フロインドリーブ
- 吉江直記
- 吉川貴則
- よしだ
- 吉田佳奈美
- 吉田直子
- 米崎奈棋
- 脇正行
- 和田林幸紀

## プレゼントのしづみやき

お菓子の「柿の種」を見ながら、「これ、埋めたら柿になるんかなあ?」、柿になる日を気長に待ってみる!?

(高3 Kくん)

「お姉ちゃん、空にそうめん流れてる?」と嬉しそうに言うので、空を見ると、きれいな飛行機雲が何本もありました。

(小1 Hくん)

カードゲームをしていた時、「お姉ちゃん、しゃっくりして!」と言ってきたMちゃん。それは、「シャッフル」だね!

(小3 Mちゃん)

昔悲しい事があった時、タンスの中に隠れて、しめしめ、泣いてたねんと、小さかった時の事を思い出して教えてくれたけど、ししく、かな?

(小3 Rちゃん)

献立表をくいているように見ているEちゃん。上から順に読み上げていき「すすす、まじめる」と。一緒に聞いていたAちゃんとすまし汁のことやな(笑)とほんわかした出来事でした。

(小3 Eちゃん)

子育てでの困りごとや悩みごと... そんなときは

匿名OK  
相談無料

子育てホットライン  
078-341-6493

平日休日問わず9:00~18:00  
緊急の場合は夜間もつながります

話を聞いてくれるんだ  
スツキリできたかも  
なんとかやってみるか

神戸真生塾 子育て支援センター  
ロータリー子どもの家

Instagram  
ホームページ  
Facebook

# 神戸真生塾子ども家庭支援センター

## ロータリー子どもの家

### センター長

上杉 徹

「親はすごい」児童精神科医である「リエゾン」ことものこころ診療所」の漫画とTVドラマの監修である三木崇弘氏は著書である『凸凹(発達障害)』のためのおとなのこころがまえ』の冒頭に前出の言葉を書いて励ましています。子どもの育ちを守り育てるために保護者は必死になって子どもの行動を理解しようと頑張っています。企業の産休・育休が推進され、0歳、1歳の子どもと過ごす保護者が増えている一方で、子育てに悩み苦しむ保護者も増えております。この3年程、毎年、児童相談所への虐待相談件数は20万件を超え、令和4年度の速報値では219,170件となっています。その中から児童相談所にて一時保護される

ケースは13・2%程であり、里親家庭含めて施設入所は更に少なく僅か2・1%となっています。つまり、ほとんどの相談ケースが地域社会の中に埋もれています。

19年目を迎える弊センターでは地域社会の中で、子育ての心配事に寄り添いながら児童虐待の子防的ケア、再発防止に取り組んで参りました。私はこの4月よりセンター長に就任しました上杉 徹と申します。神戸YMCAにて18年間、地域の子どもたちの健全育成と進学教育に

従事し、17年前より12年間弊法人の保育園・認定こども園の園長を担い、5年前より児童養護施設の施設長、昨年度より理事長に就任しました。子どもと保護者が地域社会の中で楽しく文接する仕事と、状況によっては一旦、施設にお預かりして、安全・安心の居場所を確保して家庭にお返しする役割を担ってまいりました。『笑顔で子育て』が地域社会に広がっていくことを目標に変わらず、活動を続けていきます。子育てで悩みや苦しみを持たれる方へぜひ、ご相談、ご紹介ください。お待ちしております。

### 神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 宮本 敬彦 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家 センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
- 有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家 主任指導員)
- 苦情解決責任者 上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 橋本 美紀代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家 施設長)
- 第三者委員 岡部 正嗣 (当法人監事)
- 中村 悦子 (中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 令和6年1月から7月末まで 0 件

### 編集後記

新しい年度になり、たくさんの新人職員を仲間に加え、神戸真生塾は、にぎやかに毎日が流れています。月日が経つのは、とても早くあつという間に広報誌「愛」第51号をお届け出来ましたことをとても嬉しく思います。

真生塾を取り巻く多くの方々からの愛に包まれ、子どもたちは伸び伸びと日々成長していています。感謝申し上げます。

今後も職員一同、子どもたちの心に寄り添いながら、楽しいことや嬉しいことを共有していきながら子どもたちの成長と共に歩み、広報誌を通じてその姿をお伝えできるよう励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、広報誌発刊にあたり、ご協力頂いた全ての方々、日頃よりご支援いただいているすべての皆様にご心より感謝申し上げます。これからも末永くよろしくお願いたします。

森本 智美

